

障害福祉研究部

Department of Social Rehabilitation

障害福祉研究部は、障害者の社会適応に関する社会的及び心理学的調査研究を実施することを目的に設置されました。社会適応システム開発研究室と心理実験研究室があります。近年の障害観の発展に伴い、障害福祉研究部の研究領域も変化したため、障害者を取りまく環境としての社会、文化、制度及び技術のあり方も研究の対象となっています。現在は、以下の研究を行っています。

I. 社会学・情報科学を駆使した障害者のコミュニケーションシステム支援に関する研究

(1) プリント・ディスアビリティのある者の支援に関する研究

本などの印刷物が読みにくい（プリント・ディスアビリティ）場合に、パソコンを使って、文字、画像、音声読み上げ（マルチメディア DAISY 版の本）で、どんな効果が得られるかを調べています。



マルチメディアデイジー版避難マニュアル



地形、等高線、住宅（要援護者情報を含む）を重ねた地理情報システム

(2) 障害者の防災対策とまちづくりに関する研究

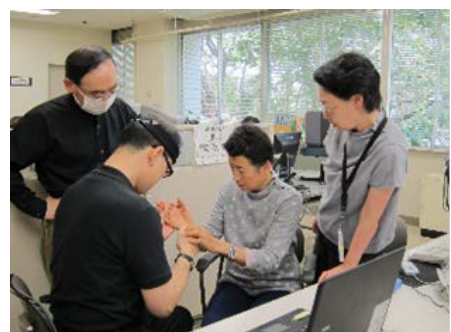
障害者の防災対策に関する進んだ例を紹介したり、障害者用の防災マニュアルを作ったりしています。

II. 障害者の自立と社会参加を支援する心理的社会的技法研究開発

(1) 盲ろう者の支援に関する研究

目が見えなく、かつ、耳が聞こえない人が生活するための訓練方法と効果を調べています。

盲ろう者が盲ろう者に触手話でパソコン訓練をする様子 →
左右にいるのは通訳・介助員



III. 障害者・慢性疾患患者の家族への支援に関する研究



障害や慢性疾患のある人の家族、特に、きょうだいに、どのような支援が有効かを調べています。グループワークを行い、人形劇、紙芝居、パンフレットなどを作りました。海外との比較もしています。

← 小学生のきょうだいを対象にしたグループワークで障害の話をしているところ

IV. 持続可能な障害福祉制度の整備に関する研究

(1) 補装具費支給制度の改善策に関する研究

義肢・装具・座位保持装置等の補装具費支給基準の基礎となる製作費用の調査を踏まえた価格設定に関する提案を行っています。また今後の補装具費制度について、適切なものが必要とする人に適切な価格で提供されるための制度の在り方について検討を行っています。

(2) 福祉機器に関するコストベネフィット評価法の開発に関する研究

重度肢体不自由者用ロボットアームを題材とした、福祉機器導入による費用と便益の大きさの評価方法の開発を進めています。

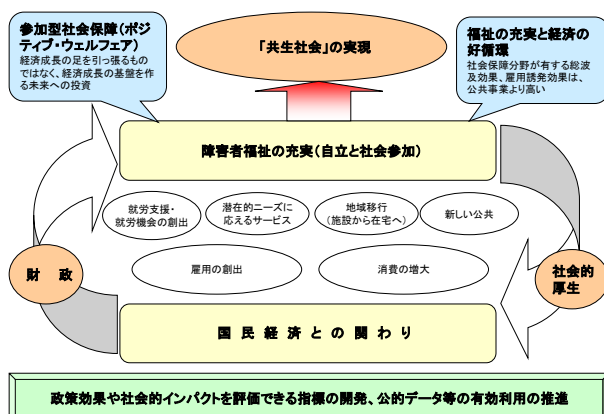
(3) 持続可能な福祉制度に関する研究

障害福祉施策によりもたらされる経済面への影響の評価を行っています。

(4) 障害関係分野における今後の研究の方向性に関する研究

障害関係分野における研究の現状を調査し、中期的に取り組むべき課題を検討するとともに、障害統計の現状を明らかにして、エビデンス集積のあり方を提言する研究を行っています。

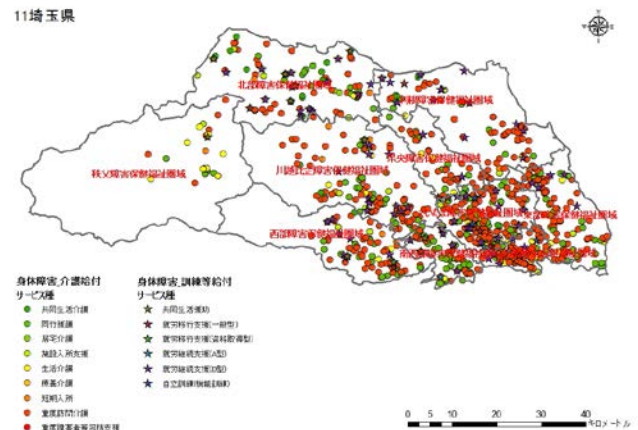
【参考】持続可能な障害福祉制度の整備に関する研究の全体イメージについて



V. 障害者支援を充実させるための施策構築に関する研究

(1) 障害者サービスの整備状況と資源の地理的な把握による障害者地域ケアモデルの開発

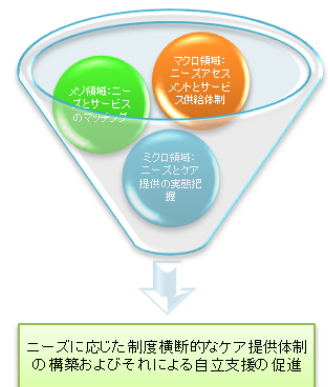
全国の障害者サービスの整備状況を可視化することで、住民のサービス事業所へのアクセス距離を算出します。これらの結果から、サービス拠点の地域配置状況や各障害福祉サービス事業所等への距離などの基本情報を整理し、障害者地域ケアモデルの開発を目指しています。



(2) 要介護者の24時間在宅生活を支えるケア提供システムのあり方に関する研究



独居要介護者に提供されるケアの24時間の時間分析や介護専門職のキャリア段位および認定制度における養成プログラムに関する検討を通じて、必要とされる人材の育成やケアシステムのあり方を明らかにすることを目指しています。



(3) 障害者雇用の社会的インパクトに関する研究

「障害者が働く」ということが、社会全体に対してどのような影響を与えるのかを知るための指標や効果測定法の開発を進めています。

(4) 就労移行期における障害者支援のあり方に関する研究

就労移行期（働きはじめる時期）の支援を中心に、就職した方々が少しでも長く、より良い環境で働き続けられるような支援や制度を明らかにする研究を進めています。

